

第2回複素解析学I演習(2006年10月13日実施)

担当教員 平地健吾/ TA 松尾信一郎・塚本泰三

[1] から [3] までを解きこの演習時間内に提出してください。これらは理解を深めるための問題であって試験ではありません。相談や質問や文献参照は自由にしてください。

[1] 1次変換

- (1) $1, i, -1$ を $i, -1, 1$ にうつす1次変換 φ を求めよ。
- (2) $-1, i, 1$ を $-2, i, 2$ にうつす1次変換 ψ を求めよ。
- (3) 恒等変換でない1次変換の不動点は高々2点であることを示せ。
- (4) 相異なる2点 $a \neq \infty, b \neq \infty$ を不動点とする1次変換をすべて求めよ。

[2] 単位円板 $\Delta(1)$ の自己同型

- (1) $\Delta(1) = \{|z| < 1\}, \alpha \in \Delta(1)$ とする。1次変換 φ_α で $\varphi_\alpha(\Delta(1)) = \Delta(1), \varphi_\alpha(\alpha) = 0$ となるものを1つ求めよ。
- (2) $\Delta(1)$ を $\Delta(1)$ の上にうつす任意の1次変換 τ の一般形を求めよ。(ヒント: $\tau \circ \varphi_{\tau^{-1}(0)}^{-1}$ を考える。)
- (3) 上半平面 $\mathbb{H} = \{\text{Im} z > 0\}$ を $\Delta(1)$ の上にうつす1次変換 ψ で、 $\psi(i) = 0$ となるものをひとつ求めよ。
- (4) 上半平面を保つ1次変換を決定せよ(ヒント: (2), (3) で求めた1次変換を用いる。)

[3] 絶対収束

級数 $\sum_{n=0}^{\infty} a_n, \sum_{n=0}^{\infty} b_n$ は絶対収束するとする。このとき、

$$c_n = \sum_{k=0}^n a_{n-k} b_k$$

とおくと、 $\sum_{n=0}^{\infty} c_n$ は絶対収束し、

$$\left(\sum_{n=0}^{\infty} a_n \right) \left(\sum_{n=0}^{\infty} b_n \right) = \sum_{n=0}^{\infty} c_n$$

が成り立つことを示せ。

第2回レポート問題 (2006年10月13日出題)

[1] から [2] までを解き次回の演習で提出してください。解答には A4 版レポート用紙を使い、複数枚にわたる場合にはホッチキスで止めてください。これが守られていない場合には採点しません。このレポートは成績には関係しないので、誤魔化すことなく厳密に記述してください。演習への希望や質問を書いてくだされば、次回に反映するように努力します。

[1] 1 次変換

1 次変換で $\{|z| < 1\} \cap \{|z - 2| < r\}$ を $\{\operatorname{Re} z > 0, \operatorname{Im} z > 0\}$ の上にうつすものが存在するための $r > 0$ の条件と、そのときの 1 次変換を求めよ。

[2] Zhukovski の関数

(1) $f: \mathbb{C} \setminus \{0\} \rightarrow \mathbb{C} \setminus \{0\}$, $z \mapsto \frac{1}{2} \left(z + \frac{1}{z} \right)$ による, 0 を中心とする円の族と, 0 を始点とする半直線の族の像を調べよ (細かい場合分けをした方がよい。)

(2) $\{|z| > 1\}$ と $\{|z| < 1\}$ の像はそれぞれどのような集合か?

(3) f を Riemann 球面から Riemann 球面への写像 $\hat{\mathbb{C}} \rightarrow \hat{\mathbb{C}}$ とみたとき, 1 次変換 φ で,

$$\varphi^{-1} \circ f \circ \varphi(z) = z^2$$

を満たすものをひとつ求めよ (ヒント: $f(z)$ の不動点と z^2 の不動点に着目せよ。)

複素解析学 I サイトでは演習で配布するプリントや講義メモを載せています:

<http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~hirachi/courses/complex1-2006/>

(問題作成: 平地 / 昨年度の TA 伊藤健一さんのファイルを編集したものです)